

# トゲチシャ（刺萵苣）

（キク科アキノノゲシ属）

NPO 法人グラウンドワーク八尾

齊藤侑三

葉がちぎれたような草が数年前から、なぜか交通量の多い道路や空き地に生えている。この植物はキク科アキノノゲシ属の1～2年草、ヨーロッパの原産で高さ1～2mになる。花は直径約1.2cm。花は黄白色で7～9月の午前中に咲き、午後にはしぼむ。別名「アレチチシャ（荒地萵苣）」ともいう。

1949年に北海道ではじめて確認され、八尾では5年くらい前から道端でよく見るようになったが、2018年5月伊賀森林公園に行った時、付近の道路には確認できなかったため、まだ繁殖していない地域もある。種はタンポポの実を小さくした形で風に飛ばされていく。葉は上を向いているが、少し成長したところに葉の付け根が90°捻れて、葉面が横を向く。

道路の緑地帯や街路樹の植樹帯などに生えている。茎や葉の裏をみると、固い刺（とげ）があるので分かりやすい。葉に切れ込みのない変種もあり「マルバトゲチシャ」といい、一緒に生えていることもある。

分布は中国、ロシア、インド、パキスタン、西～中央アジア、ヨーロッパ、北アフリカ。年配の方はチシャをよく食べていた。これらはレタスの仲間で種類は多いが、トゲチシャは茎の下部や葉に硬いとげがあり、食用には向かない。



背が高くなる



葉の裏にはトゲが



花



葉の裏にはトゲが



花の咲いた後